

2学年 学年だより



令和4年 6月16日
大和市立つきみ野中学校
第6号

キャンプを終えて

キャンプ1日目の午前中は雨に見舞われ、雨天プログラムの『最乗寺ウォークラリー』を行いました。歩行するコースを記した略地図「コマ図」を見て、班で協力してゴールを目指すという取り組みでしたが、違う道へどんどん進んでしまった一部生徒が、教員に捜索されるというハプニングもありました。コマ図通りに進むと、最後に200段を越える階段が表れます。階段を上ると、最乗寺奥の院です。無事ルート通りに進むことができた班は、「疲れた」と言いながらも、どこか嬉しそうな、すがすがしい表情で、この階段についての感想を口にしていました。午後は天気も回復し、野外炊事とキャンプファイヤーを予定通りに行うことができました。ファイヤーの最後は、一同目を閉じて、キャンプ実行委員の生徒達による語りとトーンチャイムの「キセキ」の演奏に耳を傾けました。そして目を開けると『キセキ』の光文字が木々の間に……。この演出に、感動で涙を浮かべている生徒もいました。課題もいくつか見つかったキャンプではありましたが、日常生活では味わえない貴重な体験ができたのではないのでしょうか。キャンプで深めた絆や学んだことを今後の生活にも生かし、さらに素敵な青学年をつくって欲しいと思います。

生徒の作文紹介

～今回は2・4・6・8組です～

『青学年最高のキャンプ』

2組

五月三十一日、六月一日、この二日間でたくさんのことを学び、たくさんのお楽しみを知りました。

スタンプの準備のときには、みんなでひとつのものを作り上げようとする難しさを感じました。気のせいかもしれないけれど、一年生のスタンプフェスティバルよりも、準備の時間が短かったように感じました。その短い時間の中、一人ひとりが、やらなければならないことを考えて、スタンプの練習をしました。私も、自分が今何をすればいいのか考えながら、準備をしました。そして、当日。スタンプをリハーサル通りにやりきって、大成功をおさめたとき、「みんなでひとつのものを作り上げることって、こんなにも楽しいものなんだ。」と感ずることができました。

キャンプファイヤーで思ったことが、もう一つあります。それは、学年が一つになることが、いかに感動的かということです。キャンプファイヤーが終わる頃、「顔を伏せてくださ

い」と、言われました。実は、私は、その頃すでに泣き始めていました。ファイヤー実行委員が、今までを振り返る話をしてくれたとき、「実行委員はこんなにキャンプのために用意してくれていたんだ」という、感謝がこみ上げてきて、感動に涙があふれました。実行委員が動いてくれていたこと、曲がかかるたびに手拍子をする姿、学年ダンスなど、たくさんのことを思い出して、うれし涙があふれました。

キャンプは大成功でした。中学二年生は始まったばかりで、この先、何があるかわからないけれど、このキャンプをやりきった私たちは無敵です。難しいこともあるけれど、この先の行事は、今まで以上に楽しめる行事にします！そして、たくさん学びます！



『思い出深いキャンプ』

4組

5月31日。いつもとは違い、緊張感と期待感が入り混じった朝だった。そして2年生の一大行事であるキャンプがはじまった。

私は、キャンプ実行委員として、このキャンプに携わってきた。事前準備は、持ち物の選別決定やトーンチャイムの練習など、大変なこともあった。けれど、本番が近づくうちにどんどん期待が高まってきた。キャンプ当日。「キャンプファイヤー」では、各クラスのスタンツや出し物を見て、皆と一緒に楽しむことができた。日が落ちて、キャンプファイヤーも終盤に差し掛かると、実行委員として最後のトーンチャイム演奏が始まった。その時、私はキャンプ一日目を振り返っていた。辛かったけど勉強になったウォークラリー。みんなで協力して作ったカレーがとてもおいしかったこと。どれもとてもいい思い出。感謝の気持ちと達成感を感じながら一日目を終えた。そして、次に目が覚めたら四時だった。コテージのみんなと楽しみながら準備をし、二日目が始まった。朝は少し焦げてしまったカートンドッグを食べた。その後、閉村式にて、たくさんの思い出を作ってくれたキャンプ場に別れを告げた。サファリラリーやパカブで友達と一緒にたくさん遊び、たくさん笑いあった。そしてついに最後の学年集会が開かれ、キャンプが終わった。

実行委員として参加したこのキャンプ。仲間と協力したり、楽しみ合う喜びを学ぶことができた。バスでレクをやったこと。コテージのみんなで話しながら寝た時の楽しさ。私は忘れることはないだろう。今思えば、大変なことが色々起こったキャンプではあったけれど、そのことを含め、今後の学校生活にいかしていきたいと思った。



『青学年の初キャンプ』

6組

スタント練習や係別会議など、事前準備は色々大変なことがあったけれど、いざ本番になるとみんなでもりあがることができとても楽しいキャンプでした。9クラスのスタントや学年ダンス、イントロクイズ、様々な劇、ゲーム。さまざまなイベントを通して、改めて青学年みんなと交流が深まった気がします。

カートンドッグのアルミホイール事件などのハプニングはあったけれど、パカブやウォークラリーなど、みんなで楽しむことができたので、結果オーライだと思っています。

最初は仲の良い人が班にいなかったことで、不安だったけれど、話してみるとおもしろく楽しい人ばかりだったので、1班になれてよかったと思っています。

来年は修学旅行があるので、青学年みんなでルールを守って楽しみたいと思います。



『頼り合える班』

8組

キャンプは、一年の遠足と比べても、班で活動する時間が長かった。炊事のほか、ウォークラリーや森のサファリラリーなど、自分たちで道を考えて進まなければならない場面もあった。そんな中で、班での協力は必要不可欠なものだったと思う。

班での助け合いが一番目立ったのは、ウォークラリーだ。例えば、水筒の水が無くなってしまった人に水を分けてあげたり、最後の階段を早めに上りきった人が上り途中の人の応援

をしている人がいた。中でも、帰りで歩くのが辛くなってしまった人の荷物を持ってあげる人が、班で何人もいたことに胸を打たれた。自分も、班の人を励ましたり、荷物を持つことがあった。

また、炊事では自分が助けられることがあった。炊事をする前までは、「僕はかまど係だから、頑張って火を保たないと。」と思っていた。でも、実際には、同じ班の人が薪を追加したり着火したりなどたくさん手伝ってくれた。班の人が手伝ってくれることはほとんど考えていなかったので、感謝の気持ちでいっぱいだった。

他にも、班の枠を越えた協力もあった。例えば、ウォークラリー中に2つの班が合流したときにうちわで仰いでくれたり、違う班のかまどの掃除や鍋洗いを手伝ったりしていた。

このように、キャンプでは班を中心にたくさんの協力が見られた。もちろん今ここで紹介したのは一部でしかない。同じ班でも、性格やできること、役割はみんな違う。だから、班の中で、苦手なことをそれが得意な人が手伝うなど、誰かの「できない」を他の人がカバーすることで、班としてできることが増えると思う。来年の修学旅行でも、グループとして協力し合える班を、みんなで作れたらいいと思う。



<キャンプ場から素敵な絵葉書が届きました>

この度はご利用ありがとうございました。
村での活動は楽しめたのではないかと
思っています。ご利用お待ちしております。
今後ともよろしくお願いいたします。

森の空中あそび「パカブ」 モダン湯治「おんり〜ゆ〜」
割引きご利用のご案内



このポストカードのご提示で割引利用が可能です。
※ポストカード1枚で10名様まで。
※有効期限は2023年3月末まで。
※他の割引きとの併用はできません。
※それぞれの施設窓口でこのカードをご提示ください。
詳細は右のQRコードからご確認ください。



神奈川県立 足柄ふれあいの村



<キャンプ1日目のスタッフ>





< 2学年 1学期期末試験前の学習支援 >

6月14日(火) 朝学習(数学)

15日(水) // (英語)

16日(木) // (理科)

17日(金) // (国語)

20日(月) // (社会)

放課後 英語補習

放課後 数学補習

放課後 学習質問日(全教科)

